同じ星

太宰治

青空文庫

自分と同年同月同日に生れたひとに對して、無關心で居られるものであらうか。

私は明治四十二年の六月十九日に生れたのであるが、この「鱒」といふ雜誌の編輯をして居られる宮崎讓氏も亦、明治四十二年の六月十九日に生れたといふ。

七、八年も前の事であるが、私は宮崎氏からお手紙をもらつた。それにはだいたい、次のやうな事柄が記されてあつたと記憶してゐる。

文藝年鑑に依つて、君が明治四十二年の六月十九日に誕生した事を知つた。實に奇怪な感じを受けた。實は僕も明治四十二年の六月十九日に誕生したのである。この不思議な合致をいままで知らずにゐたのは殘念である。飮まう。君の都合のよい日時を知らせてくれ。僕は詩人である。

そのやうな内容のお手紙を受取り、私はへんな、夢見心地に似たものを感じた。

斷言してもよからうと思はれるが、明治四十二年に生れた人で、幸福な人はひとりも無いのである。やりきれない星なのである。しかも、六月。しかも、十九日。

罪、誕生の時刻に在り。

自分自身のやりきれなさを、私は自分の誕生の時刻に歸着せしめた事さへあつたのである。

その恐怖すべき日に、ナンテ、そんな、「恐怖すべき」ナンテ、そんな、たかがそんな、ありきたりの形容で輕く片づけられるものではなくて、鏡を二つ合せてあの映像の數を勘定する

やうな絶望に似たいやな困難な形容詞が必要なのであるが、とにかく、その日に生れた詩人と一緒にお酒を飲むのが、私にはひどく躊躇せられたのである。

結果は、しかし、清涼であつた。逢つてみたら、この宮崎譲氏は、私の知つてゐる人の中で、最も、うひうひしい人であつた。うひうひしい、といふ形容も亦、甚だ以てきざであるが、誠實、と置きかへてみても、なほきざである。

とにかく私は、宮崎氏と會見して、救はれたところがあるのだ。救はれる、ナンテ言葉も實に輕薄であるが、私は宮崎氏の無事をしんから祈つてゐる、とでも言ふより他に仕様が無い。お大事に。と千萬の（これもどうにもきざだが）祈りをこめて宮崎氏に言ひたい。

こんど雜誌を出されるさうだが、いままでの、いままでの、あなたのとほりに、生きてゐて下さい。後略。

昭和二十一年九月八日。

青空文庫情報

底本：「太宰治全集11」筑摩書房
1999（平成11）年3月25日初版第1刷発行
初出：「鱒　第一巻第一号」
1947（昭和22）年1月1日発行
入力：小林繁雄
校正：阿部哲也
2011年10月12日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

同じ星

太宰治

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/